

令和8年8月21日市長定例記者会見 会見録

◆司会

皆様お待たせいたしました。それでは定刻となりましたので、ただいまから8月21日金曜日静岡市長定例記者会見を開会いたします。

本日の発表案件は1件、健康アプリを活用した高齢者の介護予防事業しずさんポの開始となります。それでは難波市長お願いいたします。

◆市長

はい、よろしくお願いします。

発表案件は今の健康アプリを活用した高齢者の介護予防事業しずさんポの開始なんですけれども、今日は本当は静岡地域クラブ活動への移行についても発表したいと思っていました。やはり8月中に発表したいと考えていたんですけど、ちょっと微妙なところで修正が必要なところがありましたので、次回の記者会見を9月2日に予定していますので、9月2日には必ず地域クラブへの移行について、発表をさせていただきたいと思っております。ちょっと多くの方に問い合わせをいただいたり、ご心配をおかけして大変申し訳ないんですけどもそのようにさせていただきます。

それではこのしずさんポの開始ということなんですけども、介護予防事業なんですけども、静岡市要介護認定者数の増加、あるいは既存介護予防事業の新規参加者が増えているというような課題がありますけれども、この高齢者の介護予防、予防ですねこれがやはり重要です。一度要介護状態になるよりも前の段階からその状態にならないように予防ですね、これをしていくというのが非常に大事だと考えています。

従ってこの健康アプリを活用したこのしずさんポで、この介護予防を進めていくということです。このサービスなんですけども、アプリを使った取り組みなんですけども9月1日から開始をいたします。中身は市内在住の65歳以上の方を対象に、散歩や脳トレ、健康記録などの日常的な健康活動に取り組んでいただいた場合にポイントを獲得できるというものです。年間最大5000ポイントが獲得できます。このポイントはペイペイなどのデジタルマネーに交換してお使いいただけるということになります。この事業で5000ポイントなんですけどもあの日の少しでも励みになってですね、日々5ポイントとか、そういうことであっても積み重ねがやはり大事ですので、これで少しでも外出していただくとか、そういうその介護予防に繋がる行動、いわゆる行動変容と言っていますけどもそれに繋がればと思っております。具体的中身については、こちらのこういうパンフレットを用意しておりますので、これを参考にいただければと思い

ます。

ポイントのところちょっと進んでもらうと、例えばこういうことですね、このアプリにまず入れていただくんですけども、それで日々活動するときに今日はこれをしたと、例えば歩いて散歩をしたというときに、今日は5ポイントを入れますというようなことでポイントを入れていくということになります。

脳トレもありますのでやっていただいて、そうするとこれでポイントを入れるというようなことになります。これをできれば毎日少しずつでもやっていただけると介護予防には繋がると考えていますので、ぜひご利用いただければと思います。それで中身については担当からしっかりとご説明をさせていただきたいと思いますが、今年の対象者はまずですね、ちょっと次のページ最初の資料ですね。

まず市内在住の65歳の以上の方で、今年度は先着1000人の方に試していただきたいと思っております。その後、今年の3月31日まで、9月1日から3月31日までやりますけれども、活動をしっかりやっていただいた方にはまた特典も付くような制度にもなっておりますので、ぜひ取り組んでいただければと思います。

ポイントが貯まる活動と書いておりますけれども、もう一度繰り返しますが、歩数や脳トレ、食事内容の記録、イベント参加など年代や性別に応じて設定された目標を達成すると年間最大5000ポイントが獲得できます。さらに積極的な健康活動を続けていただくために、このアプリのログイン率ですね、例えば毎日入れましたとか、それから平均の歩く歩数ですね、これが増加しましたとか、あるいは認知機能の改善率みたいな3部門でそれぞれ一定の基準を満たした方の中から抽選で各5人、ちょっと人数としてはわずかですけども追加で5000ポイントを獲得できるというものです。詳細な説明は省略をしますが、ぜひお試しください。楽しくやっていただければと思います。

◆地域支え合い推進部

地域支え合い推進部長の酒井といいます、よろしくお願いします。

今市長の方からご説明ありましたが、かぶらない程度で簡単にご説明させていただきます。まず簡単にこの背景でございますけれども、静岡市の介護予防認定者数もご多分に洩れず増加を続けておりまして、2026年3月時点で4万4616人という現状がございます。今後も増加が見込まれているということで、この健康な期間を延ばし、要介護状態となることを防ぐ介護予防の取り組みが一層重要になってまいります。そこでこれまでも様々な介護予防の取り組みを行ってまいりましたが、新規の参加者が伸び悩んでいるといったこともございましたので、これまで参加に取り組んでこなかった方、そういった方を頭に視

野に入れながら時間や場所にいとら縛られず1人でも気軽に取り組むことができる健康アプリを活用した新たな介護予防事業として開始させていただければと思います。

ポイントについては先ほど市長の方からもご説明があった通りでございます。説明の資料ですと2ページでございます。事業内容でございますけども括弧3のところで、対象者と活動については割愛させていただきますが、交換できるデジタルマネーについては4種、ペイペイ、dポイント、auペイギフカード、ワオンポイントということでこちらの利用者ですとか、または利用できる店舗が多いというところで4種類設定しております。

実施期間については9月1日から、先ほど市長からもご説明ありました通り、2027年3月31日まで実施させていただきます。利用の申し込み9月1日10時から受け付けまして、市の方で若干の静岡市民であるかなどの審査を受けてから承認ということで活動をスタートできる形になります。ポイントは3月31日までデジタルマネーに交換できまして、4月以降の未交換のポイント失効してしまいますので、期限までにデジタルマネー交換していただければと思います。

申し込みはチラシの方にも書いてありますけども、健康アプリのように「脳にいいアプリ」というのをインストールしていただいて、静岡市メニューから申し込みフォームを進んでいただくということです。高齢者が活動していただく介護予防ということで、アプリ不慣れな方もいらっしゃるかと思いますので括弧6でございますけども、アプリのインストールとか申し込み、ポイント交換支援するため9月から10月まで記載の通り、静岡庁舎と清水庁舎にサポート窓口を開設させていただきます。また10人以上の参加が見込まれる団体グループには出張相談会ということで実施をさせていただきます。地域包括ケア推進課までお問い合わせをいただければと思います。

当事業の愛称なんですけど、しずさんぽということで命名させていただきました。親しみを持って事業に参加していただくため静岡と散歩を、さらにポイントを組み合わせ「しずさんぽ」と名付けました。健康作りに気軽に取り組みながらポイントを貯められる事業であることを表現させていただいております。ぜひ積極的なご周知をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

◆市長

はい、それでは発表は以上です。

◆司会

それではただいまの発表案件に関する質疑をお受けいたしますので挙手の上、

所属をおっしゃった上で質問をお願いいたします。はい、静岡朝日テレビさん。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビの林です、よろしくお願いします。このしずさんぽなんですけれども、こういった取り組みを始めようと思ったのは難波市長からの提案があったのか、それとも市の職員の皆さんからこういう提案があって、じゃあやってみようってことになったのか。背景を教えてくださいと思います。

◆市長

これは市の職員からの提案ですね。全体として市として取り組んでいるのは予防に力を入れましょうということで、例えば発症予防、重症化予防、そういったところに力を入れています。例えば脳梗塞の予防のために心房細動を測るエスパフという取り組みを、エスパルスじゃなくてエスパフなんですけど、そういう取り組みを清水区中心にやっていますけども。これは心電図をとったときにそれを分析して、それで脳梗塞の発症リスクっていう心房細動があるかどうかのリスクを見て、それが脳梗塞に繋がるのでその段階で発症予防をしていくという取り組みなんですけども。あるいはその糖尿病の予防であるとか、そういったことに非常に力を入れています。その予防の一環でこの介護についても何かいい方法はないかという話は私からしましたが、具体的にこれを選んで制度設計をしたのは担当者の発案と担当部局の発案ということになります。

◆静岡朝日テレビ

計算すると大体 500 万円ぐらいポイント分でお金がかかるのかなと思うんですけど、その 500 万円とあとは事業費ですね。これはいつの議会に提出したい考えでしょうか。

◆地域支え合い推進部

はい、お答えします。こちらについては当初予算でも確保済みでありまして、2 月議会、今年の 2 月議会で提出済みでございます。

◆静岡朝日テレビ

現時点で静岡市内の 65 歳以上の方って人口が何人いるか、あわせて今年度は 1000 人ということなんですけれども、今後拡充するお考えがあるかどうか、あわせて教えてください。

◆地域支え合い推進部

静岡市の 65 歳以上の高齢者は大体約 21 万人でございます。今年はこの事業初年度ということで一斉にということで目標としております。大体 21 万人の高齢者に対しまして、普段そういった地域活動ですとか社会活動に参加していない方、これらのデータがあるものですから、そういった参加していない方ですとかそれからスマホの保有率、それからアプリを利用できるかくらいを総務省のデータなどを活用しまして、大体 1 万 8000 人ぐらいが最終的には参加していただければいいなと思っております。今年度初年度ということもありまして事業の周知期間ですとかあるいは普段の中でサポートしていただくこともありますので、1000 人ということ目標にしておりますけども、順次参加者については拡大をしていきたいなということで考えています。

◆市長

活動もそうなんですけど、結構ポイントを入れること自身が脳トレになります。そういう面でも、毎日 1 ポイントでもいいから、このアプリを起動するだけで 1 ポイントですから、そういった形で毎日何かやっていただくのが非常にいいかなと思いますね。

◆司会

はい、静岡新聞社さん。

◆静岡新聞

静岡新聞の岡田です、よろしくお願いします。今の質問にもかぶるんですけども、目標最終的に 1 万 8000 人ぐらいが目処かなというところで、例えばポイントつけなくても何ていうか、アプリ登録してもらって動いてくれるっていうことはいいかなと思うので 1000 人で区切ってしまうのかどうなのか。そのあたりなぜ 1000 人という設定なのか。より多くの人に広まってくれればいいかなというふうな思いがあったんですけど、その辺りはいかがでしょう。

◆市長

最初にこれまず入れてもらうというところで、こちらでご案内をしないといけないというようなこともありますので、まずは様子を見てっていうところになります。当然最初の、例えば 9 月にスタートして非常に好評ということであれば、それは人数を増やすということは十分考えられると思います。予算の手当がない場合については補正予算で対応するということもあり得ると思っておりますので、むしろ嬉しい悲鳴が来るぐらい皆さんの反応反響がある方がいいと思

っています。

◆静岡新聞

ありがとうございます。市長も対象になるかなと。脳トレとか必要ないぐらい冴えていると思うのでもう必要ないかなと思うんですが、市長自身が入れたりするお考えがあるかと。あとこれはちょっとなんていうかランキングみたいなのがもしあって、市長を目指せみたいなのがあったら面白いかなとか思ったんですが、そういったことはまだ考えてないのかなと思うんですがいかがでしょうか。

◆市長

入れるのは入りたいと思っていますので。それを自分で入れてみると、入れることの大変さとか使い勝手だとか、自分のチェックにもなりますから一度入れてやってみたいと思っています。目標はもっと私の活動よりも高い目標を持ってやっていただくのがいいかなと思いますので。

◆司会

その他発表案件についていかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさん。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビの林です。静岡新聞さんの質問にちょっと関連するんですけど、難波さん、入れた際に 5000 ポイントたまったらそれは受け取りますか。

◆市長

はい当然、はい。頑張ります。

◆司会

その他よろしいでしょうか。はい、引き続き静岡新聞さん。

◆静岡新聞

静岡支部の塩谷です、お願いします。いただいた資料の背景のところで、現状の課題として介護予防の参加者の 9 割が女性に偏っているということで男性の参加が進んでいませんという課題があると思います。9 割っていうとかなり偏っているなっていう印象なんですけれども、今回は男女問わずってことだと個人的には思うんですが、これは男性の何か参加を促進するような企画みたいのって別に何かあったりするんでしょうか。

◆地域支え合い推進部

従来の介護予防事業が女性が多いというのを市なりに分析しますと、どうしても対面型の介護予防事業ということで、今やっているのがS型デイサービスとか、でんでん体操ですとかになるんですけども、どうしても特定の時間にある会場に集まってみんなで体操したりですとか、歌を歌ったりですとかそういうことやるんですけども。ちょっと一般的なことになってしまうので間違っていたら大変申し訳ありませんけども、女性の方がどちらかというと集まって何かを皆さんでやるのは向いているというか、合っているところがある、ということで、どうしても今までの女性が多かったかなということで考えております。ただそれもあるってこの男性が1割、男性の介護予防に取り組む方も増やしていきたいということで考えた場合に、今度のアプリを使った散歩ですとか脳トレっていうのは1人でもできますということで、時間や場所にとらわれず今日朝散歩しようでもいいですし、夕方暗くなってから散歩しようでもいいですし、ご自身のペースで歩いたり脳トレですとかそういったことをもって、なおかつちょっと今誘因というか、電子マネーに変えるポイントが貯められるということで、今まで介護予防活動に参加してこなかった男性もぜひ参加していただければという期待を込めて設計しているところでございます。

先ほちょっと説明が少し足らなかったところがあったんですけども、インセンティブというのをチラシの方にも書いてあるんですけども、通常の5000ポイントに加えまして多少インセンティブも持たせまして、アプリのログイン率ですとか、平均歩数の増加率、それから認知機能の改善率、この3部門でそれぞれ一定の基準を満たした方の中から抽選にはなりますけども、各部門ごとに5名合計15名に追加で5000ポイントということで付与をさせていただきますので、こちらについて頑張って取り組んでいただければということで考えております。以上です。

◆市長

やり始めるとまた男性と女性の参加率みたいのが出てくると思いますから、やっぱり想像すると多分男性の方が少ない感じがしますので、またその段階で対策を考えてみたいと思います。

◆司会

その他よろしいでしょうか。はい、朝日新聞さん。

◆朝日新聞

朝日新聞の本間です、でよろしくお願ひします。このアプリの活動の内容なん

ですけれども、健康になるんだらうなというイメージは誰でもできるんですが、医学的にエビデンスとか根拠にしているものってあるんですかね。例えば厚労省のガイドラインとかそういったものってありますでしょうか。

◆市長

普通に考えるとこれが効果があるということは見てわかる通りですけど、どのくらいエビデンスベースになっているかっていうところについてはちょっと今苦戦しているようですから、後でお答えをしたいと思います。

◆司会

その他発表案件についていかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは発表案件については終了いたします。続きまして幹事社質問の方へ参ります。本日の幹事社が日本経済新聞社さんになりますので、お願いいたします。

◆日本経済新聞

日本経済新聞ですよろしくお願いします。消費税の減税についてお聞きします。来年の4月から食料品の消費税率が1%に減税されると思うんですけど、それにあわせて国の方が中低所得者向けに所得に連動した給付制度を始める予定で、地方にも財政、実務の負担を求める方向です。こちらについての受けとめを教えていただければと思います。お願いします。

◆市長

食料品の価格ですね高騰していますので、市民生活に大きな影響が出ていますので国として何らかの形で、この物価高騰対策をやっていただけるというのは大事なことだと思っています。消費税率の1%への減税がいいかどうかについては、これは国でもうお決めになったことですので、特にコメントしないことにいたします。ただその減税の影響が静岡市で言うと、地方消費税の交付金で27億円の減収になります。これについては代替財源を用意してくださるということですので、その代替財源がない場合は、例えば社会保障関係に影響が出るということになりますから、国においてしっかりとした代替財源を確保して補填措置をしていただきたい。具体的に言うと27億円の減収が生じないようにしていただきたいと思います。ただそのときにこの27億円は補填をしたんだけれども別のところで、例えば地方に回ってくるお金が減少するということもないことはないですので、そうするとまた地方の経済に影響あるいは市民生活に影響が出ますので、しっかりその辺りについてはある減税措置がその部分は

いいんですけども、それが回り回って他のところで効果が減じられるようなことでは困りますので、しっかりとした全体としての最適な制度を作っていただければと思っております。

ご質問にありました所得に連動した給付制度ですけども、これは私は前から賛成をしているんですけども所得を再分配するということになります。所得に連動した給付制度ですね。これについては所得再分配の機能が働きますので、これを通常の給付制度で一律給付という形に比べると、この中低所得の勤労者、とりわけ現役の勤労者の負担軽減になるという細かい給付制度になると思いますので、これはぜひやっていただきたい。早くやっていただくのがいいかなと思っております。以上です。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問についての関連質問いかがでしょうか。
はい、静岡朝日テレビさん。

◆静岡朝日テレビ

度々すみません、朝日テレビの林です。あの2月の衆議院選挙のときに難波さんは代替財源がなければ消費減税するべきではないというお考えを示されていました。今難波さんの口から27億円の代替財源がなければ、27億円の減収になるというお話でしたけれども、この27億円は主に多分社会保障費に使われているのかなと思うんですが、現時点でわかる範囲で何に使われているか具体的に教えていただければと思います。

◆市長

具体的には後ほどしっかりお答えをしたいと思いますけど、あの27億円分がどこどこに張り付いているわけではありませんので、例えば全体としては203億円、令和7年度の決算見込みでいうと203億円というのが地方消費税の交付金になっています。それを社会保障関係に使っているということになりますので、これ一対一対応しているわけではありませんので全体の中でこう割り振っていますので、そこに影響が出る可能性があると思います。

消費税減税については今年の2月ちょっと何を言ったか全部は覚えていませんけども、一律消費減税をすると、どうしても高所得者層の消費額が高いので、その部分もそのまま落ちるわけですね。むしろ一律消費減税をすると、高所得者層の減税額が高くなるということです。あまり適切ではないということは申し上げたと思います。

一方で、消費税の中でこの食料品だけに限ると、食料品はやはりよくエンゲル

係数って言いますけども食料品の材料のとこだけ言うと、低中所得層と本当に富裕層と言われる人たちとそんなに食料品の材料費が変わるわけではないですね。ですから、材料費とか食料品の購入額自身がそれほど大きくは変わらないので、そういった面で累進性とか逆累進性になるような減税方法ではないので、全てのものを一律に減税するよりも、食料品に限って消費税率を減税するというのは考えられる方法だと思っています。ただ、それでもやはり所得に連動した給付制度ですね、これは政府もそのようにおっしゃっていますので、そちらの制度が本来は望ましい制度だと思いますので、ぜひそれを早く実現していただくのがいいかなと思います。

◆司会

はい、その他質問いかがでしょうか。幹事社質問関係よろしいでしょうか。では幹事社質問関係についても以上といたします。ここからはその他の質問になりますので、何か質問のある方は挙手をお願いいたします。はい、テレビ静岡さん。

◆テレビ静岡

テレビ静岡の高本と申します、よろしくお願いします。熊本地震関連で何点か伺いたいことがありまして。八代市の方で主に生活用水として井戸を使っている世帯が今断水が続いているんですけれども、このニュースもしご存知でしたらまずこのご所感、どういうふうはこの被害状況をご覧になっているか伺いたいんですけれども。

◆市長

被害状況はちょっと調べてお答えをしたいと思いますけど、被害状況というよりもその被害の影響という観点でちょっと代わってお答えをしたいと思いますけれども。静岡市も大きな災害、特に広域災害があったときについては、まず特に地震であるとか津波であるとか、そういうことによって被害を受けたとき、とりわけ地震ですけども、静岡市の場合は液状化にちょっと弱いところがありますので、上下水道がやられる可能性はかなり高い。上下水道の耐震化率が低いという状況にあります。従って水道料金も値上げをさせていただいて、耐震化を急いでいるんですけど、なかなか間に合わないという状況ですね。そうすると災害時の協力井戸というものを積極的に今掘っていただいています。それは地域の例えば自治会のところに1ヶ所掘ってもらって、それは誰でも使えますよと、災害時は誰でも使えますよと。あるいは個人で掘っても、災害時にはどうぞお使いくださいって言って開放するような、そういう井戸を掘るこ

とについて助成制度を今作っています。おそらく全国的にも突出してこの災害時協力井戸というのが多いという状況になっています。ちょっと何年前に始めたか忘れましたが、もう2年ぐらい前じゃないかなと思いますけどそのときに始めましたので、そこから急速に数が増えていますのでそういった点で井戸を利用した水の対策っていうのは進んできていると思います。ところが今回の八代市の地震を見て、地震によって井戸がやられるっていうところを目の当たりにしましたので、そうするとこの災害時協力井戸のあり方についても災害時協力井戸は大事なんですけども、その脆弱性の評価ですね。今回の八代市の地震による井戸への影響を踏まえて、八代市で何が起きてそれを静岡に照らしてみると、どういう状態での発生が想定想像されるのかを見て、それに対してどう対処すべきかというのを考える必要はあると思います。従って八代市の被害そのものについて細かくは調べておりませんが、これからいろんな分析が出てくると思いますので、我々が分析するんじゃなくて災害でいろいろお調べになっている方々の分析結果が出ますので、それを踏まえて我々としてこの静岡市の井戸の脆弱性評価をしっかりとやっていくっていう、弱点評価ですね、これをやっていくのは必要だと考えています。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。先ほどのお話とちょっとかぶるんですけども、水道が仮に使えなくなった場合のバックアップとして井戸っていうのはかなり大きいと思うんですけども、八代市の例で見ると濁り水がかなり出てきて使えない状態になっているという話があります。こういった現象が起きた場合、静岡市として、例えば水を掘るような補助するのか、そういった場合どのように対応していくのか。

◆市長

まず静岡市の井戸は多いんですけども、皆さん水道を使っておられます。八代市の場合はちょっと率は忘れましたが、かなりの高い比率で日常的に井戸水を使っておられるんですね。従って日常的に使っている井戸の水が使えなくなったという状態ですと、水道が復旧していても自宅では水道が使えないということになりますよね。それはそこに八代市の場合は大きな課題があったんじゃないかなと思います。静岡の場合は先ほどの上下水道管はやられる可能性は高いんですけども、中継地点にある大きな給水タンクであるとかそういうものを活用して、そこから直接水が出せるような仕組みを今作ったりしていますので、そういうところで災害時に対して対処できるような方法を考え今やっているところです。いずれにしてもこれだけに頼るということは非常に危険ですので、

こういう状態が起きたときはこう対処する。またある別の状態が発生したときはこういう状態がある、といういろいろ複数の想定を置きながら対処方針を今しっかりと考えているということです。

◆司会

その他の質問についていかがでしょうか。はい、中日新聞さん。

◆中日新聞

中日新聞の飯盛です、よろしくお願いします。清水区の海洋文化施設について伺います。建設費の高騰などを理由に市長は事業者との契約解除に向けた協議を進めると今年の4月に発表しました。その際できるだけ早く円満解決したいということでしたけども、契約解除に向けたその後の進捗というのはいかがでしょうか。

◆市長

今最終的な協議中ということになります。まだ決着をしていません。これはちょっと細かいことは省略をさせていただきますが、9月中に決着をしないといろんな費用の支払いの関係で、また別の課題が発生するということがありますので、本来は9月中に決めて、もうちょっと言うと8月中に決めて9月議会に諮って、9月議会の中で費用の精算をするっていうところが本来の形だと思っています。もうまもなく議会が始まりますので、今の時点で本当は決着をしておかないといけないんですけども、やはりその最終的なところで合意が取れないという状況になっています。ただお互いにこの9月の議会にかけるような状況を作らないとまた別の問題が発生するということはよく理解をしていますので、おそらく近々最終合意に達するのではないかと、あるいは最終合意に達しない場合は合意ではなくて別の問題にいくということですね。紛争に発展すると、あるいは裁判に発展するということもあり得ると思っています。いずれにしても、9月中の議会にかけるかどうかという状態にできるかどうかは今大きなポイントになっています。

◆中日新聞

最終合意というのは、今月末（8月末）はちょっと難しそうで議会始まってから追加上程するみたいなイメージなんでしょうか。

◆市長

わかりません。これは明日合意ということもあり得ると思っていますので。最

後は決断ですね、金額のやりとりになりますので。具体的に言うと、今までかかってきた費用をどこまで市が負担をして、どこまでをS P Cという特定目的会社が負担するかということが決着しないといけない事項になりますので、金額が決まるかどうかというのとは、「わかりましたこれでいいです」とお互いになれば、明日でも決まるような状況です。そこの最終決断ができていない。静岡市はもうこれということでお示しをしていますけども、それに対してのまだ決定をいただいていないので決着していないという状況になります。

◆中日新聞

ちょっと言葉を濁されていましたけど、揉めている点というか協議が難航している点は、事業者側との追加金額の市が提示した額っていうのが、向こうが受け入れられるかどうかというところなんではないでしょうか。

◆市長

追加金額というよりも、静岡市の責務においてかかった費用というのは当然お支払いをしないといけないので、それが、ここまでが静岡市が払うべきところでこれから先はS P Cが払うべきですよっていうところについての合意ということになりますので、追加分というよりも、全体額っていうのが一番大きなポイントになります。

◆中日新聞

既に市は確か設計費でしたっけ、負担していたと思いますけど、それとは別に契約解除に伴って追加負担が発生するっていうことでよろしいでしょうか。

◆市長

契約解除というよりも出来高払いっていうのは、設計も含めていろんなことが進んでいきますので、全ての事業を最後にお支払いするというのだとなかなか資金繰りが厳しいですので、これは契約書に書いてあって、いついつまでにできた分はこういう内容のものについてはこの時点でお支払いをし合うというのを決めているわけですね。あるいはこれについては市が払うけども、それ以外のものについてはS P Cの責務ということも書いてあるわけでそれについての合意の問題ですね。ごめんなさいちょっと直接のお答えになっていないので、以前設計費を支払った以降にまた費用が発生していますのでそれについての精算と、それから以前支払っていないものも含めて最終精算をしないといけないものがありますのでそれについての合意が得られていないということになります。

◆中日新聞

あと係争についての可能性も言及されましたけども、現時点では市長としてはあくまで訴訟に発展しない形で合意を目指したいというところによろしいでしょうか。

◆市長

お互いに円満解決ということで、契約を合意の上で解除するということで話は進めていますので、それで決着をすると考えていますけれども。それは万が一ということもありますので、その可能性がゼロではないということになります。

◆中日新聞

最後なんですけど、議会に提出しようとしている金額の規模っていうのはどのくらいなんですか。二、三億とかそういう数億円規模なんですか。

◆市長

ちょっと申し上げにくいですけども、ひと桁の億ということになりますね。10億を超えるとかそういうものではない金額になります。それは今やっていますので数億単位と考えていただければいいと思います。

◆中日新聞

ありがとうございました。あともう1つ、視察について伺います。市長、今月アメリカのサクラメントなど視察されたと思います。アリーナスタジアムのあるまち作りを視察されたと伺って公務で行かれたと聞いていますけども、どんな場所に行って何を感じになられましたでしょうか。

◆市長

はい、アリーナですね。やっぱりアメリカはアリーナを中心にしたビジネスとまち作りが進んでいますので、それについて状況を視察いたしました。まずサクラメントですけども、ゴールデンワンセンターというのがありますが、サクラメントは人口50万人ぐらいの町でサンフランシスコから、よく渋滞するのでかかたりしますけども2時間ぐらいの距離にあるとこだと考えますけれども、人口50万人ぐらいの町で静岡市によく似た人口規模ということになります。このゴールデンワンセンターっていうのは、町の中心街がダウンタウンのところが交配をしていたところに、それを市がその土地を全部買ってそこにアリーナを作ったと。それからその周辺の開発も、今度は土地を売却

をして民間事業者が開発をしている、例えばホテルであるとか商業施設を周辺で開発しているっていうものになります。それによってダウンタウンのところで、本当にちょっと言い方悪いですけど、人が寄り付きにくいような場所になっていたところが今本当に再開発をされて人が集まる場所、とりわけ若い人たちが集まるまち作りになっています。

まち作りという観点からすると、このサクラメントのゴールデンワンセンターをやっぱり見るべきだという、いろんなアリーナであるとかスポーツビジネスの関係者と話をするとそういうことを伺いましたので、それで行ってみたということになります。やっぱり何が一番よくわかったかというと、やはりまち作りの中であくまでアリーナが先にあつてのまち作り、荒廃したダウンタウンをいかに活性化するかというためにアリーナをその手段として使っているというところですね。そして周辺のまち作りと一体となつていろんな開発をしていますのでこれが非常に参考になりました。その日はコンサートが開かれる日だったんですけど、やはり人口 50 万人の町ですけれどもその有名アーティストが来ているので全米から人が集まってきているという状況ですね。やはり、そういうアリーナというのはそういう効果があるなということを実感しました。

もう一つはサンフランシスコにチェイスセンターというのがありますけども、サンフランシスコの街のど真ん中にあつて非常に便のいいところにありますけれども、チェイスが命名権をすごい金額で買ったので有名なところですよ。ここもまち作りと一体となつていて、それでアリーナと周辺に広場をいくつも用意していて、広場と一体となつてアリーナ運営をしているというところですね。それから海のすぐ横にあるので、これはアリーナで行きましたけど清水の駅の東口ですね、そこの開発に極めて参考になるというのを感じました。ここの場合はアリーナですけども、それがそのまんまスタジアムですねサッカースタジアムが変わると、こういうイメージになるなっていうのは非常によくわかったということですね。そういった面で非常に参考になりました。

◆中日新聞

ありがとうございます。今回向こうに行ったのは、アリーナの事業者の方々だったりスタジアム事業に関心を示している民間企業の方々も一緒に行ったんでしょうか。

◆市長

そうですね、新しい事業者の方々をやっぱり一緒に行つて、どういうまち作りに繋げていったらいいのかっていうのを意見交換したりしてですね、非常に参考になりました。あと近くですのでサンフランシスコですので、スタンフォー

ド大学にも行ってその先生と意見交換して、非常に新しい制度ですね、作りたいなど。スタンフォード大学とちょっと連携をして新しい取り組みができるなという提案もいただきましたので、これは単独で行きましたけど有意義だったと思っております。

◆中日新聞

ありがとうございました。あと最後にまた別のテーマで。城北公園の再整備計画について6月に計画発表されていますけど、その資料にあるスケジュールによると8月上旬にも計画決定するということでした。パブリックコメントが何件ぐらい来て、6月に発表した通りの計画で最終決定できそうだということではよろしいでしょうか。

◆市長

集計はもうして整理も終わっていますので、本当は次の9月2日の記者会見の時に発表したいと思っていましたけども、9月2日は補正予算の発表もあり、いっぱいになりすぎているので、もうちょっとだけ遅れると、次の会見、2週間後ぐらいになると思います。

ただもう中身はほぼ決まっていますのでご質問のどういう方向かということですが、いろんなご意見をいただきましたがこうした方がいいんじゃないかというご意見もいくつかありましたので、そういったご意見を踏まえて少し修正をした形で最終発表、こういう計画決定をしたいと思っています。全体としてはちょっと件数忘れたんですけど、500件ぐらいでしたかね。ちょっと担当に後から聞いてもらってください。それで、肯定的な意見が多い。ほとんどが肯定的で、ご意見をいただいた方々もこうした方がいいんじゃないかというようなご意見が多かったということです。やることの方向性としては賛同いただいているといいますか、肯定的な意見にほとんどがなっていると思っています。ただ例えばある施設を残してほしいとか、そういう強い意見はありますので、それはその全体計画が良い、悪いじゃなくて、これを残してほしいというような個別具体のご意見もありましたので、それはそれを踏まえて対応していくというようなことをしていきたいと思っています。

◆司会

はい、その他の質問についていかがでしょうか。テレビ静岡さん。

◆テレビ静岡

テレビ静岡の永井です、よろしくお願いします。千葉の豪雨災害から1週間経

ちまして、先日市長も県の方に巴川の河口水門の整備促進の要望を改めてされましたけども、改めて今回の千葉の水害を見て静岡市としての教訓なり受け止めなりをちょっと改めてお願いできますでしょうか。

◆市長

まず千葉の大雨については本当に多くの方が亡くなられましたので、哀悼の意を表したいと思います。そして被災された皆様多くいらっしゃいますので、心からお見舞いを申し上げます。

今回の千葉の大雨ですけども本当に記録的な雨でしたけども、これはおそらく経験がない降り方だったと思います。これ特徴的なのは大雨注意報が出て特別警報に変わっていくんですけど、その期間がものすごく短いんですね。この市の取り組みはありますよね。はい、もうちょっと大きくして。あの普通我々が何をやるかっていうことですけど、この雨が降りそうだとすると気象予測が出ます。気象庁は突然大雨警報を出すわけではなくて事前に連絡をしてくれます。どうもこういう状態になるので警戒をした方がいいよと。例えば、今日の夜レベル4を発表するぐらいの状態になる可能性があるんで、ちゃんと準備しておいた方がいいですよっていうのを気象庁が連絡をしてくれます。台風はもっと前からわかりますので、ずっとこのタイムラインというのを作ります。その雨が降り出して急に動くんじゃなくて、ずっとこういう状況が進んでいくので。例えば今日の夜12時に警報が出た場合はこれに対応していこうというのをあらかじめ、例えば台風で言うと3日ぐらい前から決めますし、それから急な雨でも例えば1日前とか半日前に決めます。それで状況を見て職員を配備して、そしてこういう降雨の予測だとか今、巴川の予測システムがありますので、こういう降雨のときは巴川なり内水氾濫がどのように起きそうかということとは6時間後までは計算できる状況になっていますのでそういうのを見ます。それで職員を配備して避難所の開設準備をあらかじめしておいて、アンダーパスも最近は一時的に先に止めます。水位が上がってから止めるんじゃなくて、今日の夜は雨が相当増えそうだとすると事前に通行止めになります。そういったことをやるのと、あと水害時の緊急協力駐車場ですね。例えばコンコルドさんのようなところの駐車場を開放していただくということで、事前に車を移動させてくださいみたいなことをやっています。実際に警報が発表するとこう動くわけですね。

ここからはいろんな今やっていることですけども、ちょっと千葉に戻りますけども、千葉の場合はこのやり方が通用しないですね。注意報が出てから2時間後に警報になっていますね。それからさらに1時間後から2時間後ぐらいにもう特別警報になっているので対応が間に合わない。しかも警報が出ているの

が17時44分とか18時頃もう暗くなる前ぐらいに出てきているので、多分対応ができないと思うんですね。だからそういう状況も起きうるということをやっぱり考慮した上で、これから対策をしていかないといけないと思います。今回の我々これで通用すると思っていますし、静岡市の場合はああいう雨の降り方がするっていうことはよほどのことがない限り起こらないと思います。ですが、やはりこういうことを踏まえて、これで対応できるかどうかというのは考えていきたいと思っています。

一つ例を申し上げますと、このアンダーパスの通行止めですけども、これもアンダーパスのところには水位計がついているので水位が上がってくると通行止めになるんですけど、強制的な通行止めができないですね。ただ今はそこにドンとバルーンが出て入れませんよってというようなことを自動でやるようなシステムを今入れようとしています。今まででいうと、どうもあのアンダーパスの水位が上がリそうだとすると、職員が車で走って行ってそこで通行止めのバリケードを置くわけですけども、そういうときってなかなか走れないですね。間に合わないんですよね。アンダーパスの水位の上がり具合に対して職員の行く時間が間に合わないの、もうそうするとこの水を検知したら自動的に通行止めでバルーンだとか、あの帯がパンと出るようなそういったものを今少しずつ導入しようとしています。そういった即応体制ですね、特に雨の降り方が本当に急激になってきていますので。そして天候も急変するという状況になっていますのでそういった状況を踏まえながら、新しい取り組みをどんどんやっていかないといけないと思っています。繰り返しますが、千葉もそうですし八代もそうですけど、と今まで想定をしていなかった事態が起きていますので、それはやっぱりしっかりと分析をして静岡市で何をやっていかないといけないかっていうことを日々考えていくっていうのが大事だと思っています。

◆司会

その他の質問についていかがでしょうか。はい、静岡新聞さん。

◆静岡新聞

先ほどの質問の件でちょっと追加なんですけど、アメリカの出張のときにスタンフォード大学に伺ったと言って、具体的な何か提携というかそういったことのご提案をいただいたということですが、まだ詰まってないところもあると思うので言える範囲でいいのでこういった内容の連携とか、こういったことを模索しているのか教えてください。

◆市長

スタンフォードはいわゆるシリコンバレーのところにありますので、いろんな人材が集まっている場所なんですね。そういうところで、いろんな研究とかビジネスをやっている人たちがいっぱいいますので、そういう人たちと日常的に交流できるっていうのは非常にいいんじゃないかなと思っています。ご提案いただいたのは、まだちょっとこれ予算措置もしてないし、決めていないんですけども、1年間研究員を派遣しませんかということです。

ですから留学で授業に出るんじゃないくて、そこに研究員として派遣をしてちょっとしたブースをいただいて、そこを拠点にしながら大学の関係者と話したり、それから例えばシリコンバレーですのでいろんなセミナーだとか催しがあるのでそういうところに行きながら自分の研究をする。ビジネスというよりも市に対してどういうことが連携できるとか、どういう静岡市全体でビジネス展開ができるとかそういうことがやれるような仕組みがあるので、そういうこともご提案いただいたので、それも検討したいと思っています。

それからたまたまですけども、海洋関係の面白い研究をしている方がいらっしゃった。静岡市は今海洋に力を入れて海洋のDXを進めていますよという話をしたら、今こういう研究者がいてこんなことをやっているの、この人とちょっと話してみたらどうかというご提案いただいたので、早速接触をしていきたいと思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それではその他の質問についても以上としたいと思います。

◆市長

ちょっと忘れていました、この水害ハザードマップですね。

これがまもなく各戸の配布になると思いますので、今回のものを踏まえて参考にさせていただければと思います。よく河川からの氾濫とそれから今回の千葉であつたように内水の氾濫ですね。内水の氾濫は、ある場所で降った雨よりも排水力が下回りそこに水が溜まるという現象ですけども、それについてのハザードマップも両方入っていますので。例えば同じ場所なんですけど、右側が洪水のハザードマップで、こっちが内水になっています。ですからこれ1000年に1回ぐらいの雨が降ったときに、どこにこういう内水氾濫が起きるのかっていうことになっていますので。これまもなく各戸配布になりますのでこれを見ていただくと、まさにこの千葉のこともありましたから、ぜひこのハザードマップですね、河川氾濫とそれから内水氾濫というまさにその場所の排水が悪

い状態で水が溜まるものとの両方のハザードマップになっていますので参考に
していただいて何をしたらいいのかというお考えをいただければと思っています
。以上です。

◆司会

皆様では以上をもって本日の市長の定例記者会見終了となります。
ありがとうございました。次回の市長の定例記者会見は9月2日水曜日の11
時からとなりますよろしくお願いいたします。